

高等学校 令和6年度 教科 地理歴史 科目 世界史演習

教科： 地理歴史 科目： 世界史演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1・2組 5 組

教科担当者： (1・2・5 組：八角・赤池)

使用教科書： (山川出版社『世界史探究』)

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界との繋がりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したりしたことを説明する力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けたヨーロッパ各国の動きを理解している。 ・宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現するとともに、宋代の社会や経済の発展の様子を理解する。 ・モンゴル帝国の盛衰の背景を理解し、東アジアや東西交流におよぼした影響について理解する。 ・明代において、朝貢関係が諸地域にもたらした影響や世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響、中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	・中世ヨーロッパの変容 ・アジア諸地域の自立化と宋 ・モンゴルの大帝国 ・アジア交易世界の興隆	【知識及び理解】 ・中世社会の変化とその要因・結果を構造的に理解している。 ・10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 ・モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 ・「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	・ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現するとともにアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ・中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。 ・オスマン帝国やサファヴィー朝の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。 ・ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。	・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ・オスマン帝国とサファヴィー朝 ・ムガル帝国の興隆 ・清代の中国と隣接諸地域 ・ルネサンス ・宗教改革	【知識及び技能】 ・ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 ・オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ・ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 ・清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 ・ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 ・新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12

2 学 期	・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ・16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ・ポーランドとスウェーデンが占めた位置、ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ・プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ・啓蒙専制主義の特徴を理解する。 ・科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	・主権国家体制の成立 ・オランダ・イギリス・フランスの台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	【知識及び理解】 ・主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 ・オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。 ・北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 ・科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・分野別問題演習を通じて既習事項の確認と整理をさせる。 ・大学入試問題を通じて出題形式への対策を図ったり、時間配分や解く順序などの戦略を考えさせる。	問題演習	【知識及び技能】 既習事項について構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 諸資料から必要な事項を読み取り、既習事項に関連づけながら思考し判断している。 【主体的に学習に取り組む態度】 大学入試問題や分野別問題演習に粘り強く取り組むとともに、自身の学習について振り返り調整しようとしている。	○	○	○	10
							合計
							42